



福田首相が退陣

国政停滞で決断

11就任 衆院解散を回避

福田康夫首相(72)は一めた。与党幹部が明らかになった。与党支持率の長期低迷に加え、衆参両院「ねじれ国会」の下で国政の停滞を招いたためとみられ、内閣発足後、一カ月で政権運営に行き詰まった。

与党内では「福田首相では次の衆院選は戦えない」との空気が強まっていたことから、与党大敗を回避するためには自ら衆院解散に踏み切らず身を引くのが妥当との判断も働いたようだ。

首相の辞意を受け、自民党は早期に総裁選を実施し、新総裁を選出する見通し。麻生太郎幹事長(67)らを中心に、後継選びが進むとみられる。ただ二〇〇五年九月の郵政選挙以降、衆院選を経ずに首相が三度も交代する事態となり、新首相が早期の衆院解散を迫られるのは間違いない。

記者会見で辞意を表明する福田康夫首相 11日午後9時30分、首相官邸

